15. 医学系研究科

（１）医学系研究科の教育目的と特徴　・・・・・・・・・　15-２

（２）「教育の水準」の分析　・・・・・・・・・・・・・　15-３

分析項目Ⅰ　教育活動の状況　・・・・・・・・・・　15-４

分析項目Ⅱ　教育成果の状況　・・・・・・・・・・　15-13

【参考】データ分析集　指標一覧　・・・・・・・・　15-15

（1）医学系研究科の教育目的と特徴

１．教育の目的と基本方針

医学系研究科における教育の目的は、「医学及び保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、医学及び保健学における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成する。」ことである。

２．第３期における目標と方針

医学系研究科は、身につけるべき学力、資質・能力として、豊かな人間性と高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力・独創性に富む医師、医学研究者とグローバルに活躍できる保健医療人を養成することを教育目標に掲げ、これを目指す教育プログラムの実施と教育のグローバル化への対応を目標にしている。

また、従来の目的や基本方針をよりわかりやすくした教育（修士課程、博士課程）を支える以下の３つのポリシー（ディプロマ／カリキュラム／アドミッション）を作成し、2018 年３月の教育研究評議会で承認された。2018 年度よりこれに沿った教育を展開する。

具体的には以下の項目が挙げられる。

・国際連携専攻（ジョイント・ディグリープログラム）の拡充や海外提携校との交流の活性化を行い大学院教育の国際通用性を高める。

・外国語による授業科目数の増加，履修証明プログラムの推進等により，留学生や社会人を含めた多様な学生にとって学びやすい環境を整備する。

・優秀な学生が学業に専念できる環境を整えるために奨学金等の経済的支援の充実を図る。また、学術奨励賞等により、優秀な学生の学業と研究を奨励する。

３．研究科の特徴

名古屋大学の基本理念等に基づき、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践により、論理的思考力と想像力に富み世界的に活躍できる医学研究者と医療人の養成を積極的に推進している。特に国際的に活躍できるグローバルリーダー養成と、東海地域の大学院教育の拠点としての役割を担っている。グローバルリーダー教育には、卓越大学院(CIBoG)・３つのリーディング大学院プログラムをはじめ、アデレード･ルンド･フライブルグ３大学とのジョイントディグリープログラム(JDP)、ミュンヘン大学など世界９大学で形成する GAME プログラムへの日本代表としての参加など、多彩な国際連携を展開している。一方、東海地域内大学院教育連携拠点として、東海６大学と連携した教育プログラムである「基礎研究医養成活性化プログラム」(主幹:名古屋大学)、東海地区医系４大学連携大学院プログラムである「東海国立大学病院機構 CST ネットワーク事業」(「課題解決型高度医療人材養成プログラム」として採用)がある。この他、愛知県がんセンター・国立長寿医療研究センター・愛知県医療療育総合センター・国立病院機構 名古屋医療センター・名城大学薬学研究科・生理学研究所などの東海地域の主要な研究教育機関と大学院教育で連携している。

４．学生受入の状況

博士課程の定員は 161 名となっており、年２回の入学試験を行っている。総合医学専攻の志願者数は 180～200 名程度で推移していたが、2016 年度、2017 年度はそれぞれ 238 名、261 名と多くなっている。このため、通常充足率は 110～120%である。国際連携総合医学専攻（JDP）については、2015 年度よりアデレード大との JDP が、2017 年度よりルンド大学との JDP が、2018 年度よりフライブルク大学との JDP が開始された。定員がそれぞれ２～４名であり、充足率は 50～75%程度となっている。医学系研究科（保健学）の入学定員充足率は、2013～2016 年度において博士課程前期課程 108～129%、博士課程後期課程は専攻によるばらつきはあるが定員全体の充足率は 105～129%と一貫して充足されている。

医学系研究科（医学・保健学）では、2014 年に採択されたリーディング大学院プログラム「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム(以下、ウェルビーイングプログラム)に参画し、第一期生（2014 年 10 月入学）は定員 20 名中５名、第二期生４名、第三期生２名、第４期生２名、第５期生３名

第６期生２名の計 17 名が医学(保健)から採択され、国際化が推進されてきた。2019 年に採択された卓越大学院「情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院(CIBoG)」は 2019 年後期に学生募集を開始し、2019 年度は博士課程前期・医科学修士の学生を定員の５名を採用した。

（２）「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ　教育活動の状況

＜必須記載項目１　学位授与方針＞

【基本的な記載事項】

・　公表された学位授与方針（別添資料 4515-i1-1）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目２　教育課程方針＞

【基本的な記載事項】

・　公表された教育課程方針（別添資料 4515-i2-1）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目３　教育課程の編成、授業科目の内容＞

【基本的な記載事項】

・体系性が確認できる資料（別添資料 4515-i3-1～4）
・自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 4515-i3-5～6）
・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 4515-i3-7～11）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○医科学専攻修士課程では、医学科、歯学科、獣医学科以外の学科で多様な専門分野を学んだ学生に対して、広く医学の基礎およびその応用法を体系的かつ集中的に学べるように配慮している。修士課程は医科学コース、公衆衛生コース、医療行政コースがある。医科学コースは４月から３ヶ月間に、人体形態学・人体機能学・病理病態学・社会医学・臨床医学概論を集中的に学ぶ。これらの講義は外国人学生も加わるので英語で行われる。これに加えて、所属研究室での医科学セミナーや医科学実験研究の指導を受ける。公衆衛生コースは医科学コースのうち特

に社会医学のみを必須とし、社会人が入学しやすく配慮している。医療行政コース（YLP: young leaders program）はアジア諸国で保健行政に関わる将来のナショナルリーダーの育成をめざし、留学生を対象とした１年のコースである。[3.1]

○　大学院博士課程の体系的なプログラムのなかで特徴的なものとして、(i)特徴あるプログラム、(ii)ベーシックトレーニング、が挙げられる。「特徴あるプログラム」の１つのコースは、担当教員の企画により、各テーマに応じた５～15 回の講演で構成され、現在 10 コース（キャンサーサイエンスコース、ニューロサイエンスコース、産官学連携プログラム、オミックス解析コースなど）が開講されている。ベーシックトレーニングは大学院生の実習プログラムで、基盤的手法から最先端手法まで幅広い研究手法を行っている本研究科教員の生の知識と技術を、大学院生が習得できるようにするプログラムであり、最近５年間は毎年平均して約 70 コースが開設されており、このうち４コース以上を履修する。この他教育実施体制の強化として、本学内の環境医学研究所及び総合保健体育科学センターは協力講座として総合医学専攻と一体化、愛知県がんセンター研究所、愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所、国立病院機構名古屋医療センター及び国立長寿医療研究センターの４機関は連携講座として、総合医学専攻の大学院生の教育研究指導に加わっている。[3.1]

○博士課程入学者は、所属する専門分野の指導教員の指導のもとに主科目(16 単位)と、主に基礎系の指導教員が副指導教員として指導する副科目(10 単位)を決定し、履修計画及び研究課題等を予め提出する。この他、基礎科目として、広い領域の最先端研究を学ぶ基盤医学特論や最先端の研究手技を学ぶ基盤医科学実習（計４単位）を４年間に学ぶ。また、研究コンプライアンスプログラムの生命倫理と研究倫理の受講や、EPIGIUM や CITI などの e-learning の受講を義務付けている。[3.2]

○　社会ニーズに即したプログラムとしては、文部科学省 2017 年度大学教育再生戦略推進費 「基礎研究医養成活性化プログラム」において、名古屋大学を中心に東海６大学で申請した「人体を統合的に理解できる基礎研究医の養成」プログラムが採択された。これは、６大学共同で病理・法医・解剖などの研究医育成を行うプログラムで、病理診断・法医鑑定・解剖トレーニングコース、オートプシーイメージングコース他、14 コースが用意されている。平成 30 年度より大学院生の受け入れを開始し 21 名が現在このコースに参加している。また、2017 年４月、修士課程に「公衆衛生コース」を開設した。公衆衛生コースでは、科学的根拠に基づいて施策を立案し遂行できる公衆衛生専門家や、包括的リスク管理・リスク評価のできる専門家の育成を目指している。本コースの修了時には、修士（公衆

衛生学）［Master of Public Health］の学位を授与する。[3.2]

○　医学系研究科（保健学）では、前期（修士）課程および後期（博士）課程として看護学、医療技術学、リハビリテーション療法学の各専攻に対応した教育プログラムと研究指導が行われている。保健学科独自の大学院プログラムとして、トータルヘルスプランナー（THP）養成コースを設けている（2007 年以降継続）。THP 育成コースは、少子高齢社会を包括的に支える健康増進モデルを開発・推進する人材育成を目的に、専攻、研究科、大学の枠を超えた、研究と有機的つながりを持つ教育プログラムとして構成されている。コースでは、指定履修科目に加え THP シンポジウムや関連講座によるライフトピア連携研究会への参加等を経て THP 称号と修了証を付与している。看護学専攻では専門看護師（がん看護・CNS）コースを加えて設けている。[3.2]

○　医学系研究科（保健学）では、社会人特別選抜を実施し、臨床経験のある専門職社会人への学位教育として幅広い人材育成に努めている。講義の夜間や週末開講等、社会人大学院生の受講にも配慮した時間割編成を行っている。[3.1]

○　学術動向に即したあるいは学際的な学位プログラムとしては、文部科学省の(i)リーディング大学院プログラムと(ii)卓越大学院プログラムが挙げられる。(i)リーディング大学院プログラムは、全学的に学際プログラムとして６つ採用されているが、そのうち「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダープログラム」と「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」、「PhD プロフェッショナル登竜門」に医学系研究科として参画している。(ii)卓越大学院プログラムは令和元年９月に採択された「情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院(CIBoG)」であり、医学系研究科が中心に、学内の４研究科と岐阜大学の２つの研究科が参画している。これに海外の 12 大学や財団研究所、さらに国内の 11 企業や６研究機関や地方自治体が参画し、グローバルかつローカルなグローカルアライアンスが形成されて教育をサポートしている。令和元年度には５名の修士学生を１期生として採用した。[3.3]

＜必須記載項目４　授業形態、学習指導法＞

【基本的な記載事項】

・　１年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 4515-i4-1～6）
・　シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 4515-i4-7～10）
・　協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 4515-i4-11）
・　インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 4515-i4-12）

・　指標番号５、９～10（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　2016 年度より研究コンプライアンスプログラム（生命倫理＋研究倫理）を開設し、大学院の必修プログラムとした。2017 年度より「盗用を回避するためには」全学研究コンプライアンスプログラム（e-learning）を~~実施~~開始し、大学院生の必修プログラムにした。[4.5]

○　2017 年度より、基盤医科学特論の一部として「Premium Lecture（基盤医学特論）」（別添資料 4515-i4-13）を開始した。これは本研究科から出た特に優れた研究成果を中心に発表と議論の場を設け、特に研究者同士の生の情報交換、共同研究の促進、若手研究者への刺激となることを目的に行う。優れた研究者のキャリアパスを含めてロールモデルの提示という点でも大学院生に好評である。2019 年度末時点において、15 回開催している。[4.5]

○　医学系研究科（保健学）においては、学部（保健学科）３～４年次に臨床実習および卒業研究として、臨床実習体験に基づく問題思考、研究室配属による入門的研究の実施や大学院生との交流など、４年（学部教育）＋２年（博士前期課程）の６年間教育を意識し大学院での研究につながる学部生向けの導入教育を行っている。[4.1]

・Premium Lecture について（別添資料 4515-i4-13）

＜必須記載項目５　履修指導、支援＞

【基本的な記載事項】

・　履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 4515-i5-1）
・　学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 4515-i5-2）
・　社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 4515-i5-3）
・　履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 4515-i5-4）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　医学系研究科では、指導教員制による大学院生の学習支援体制をとっている。学部学生と同様に、学生支援センターと連携し、学修、就職、学生生活の諸問題に対応する体制をとっている。また、年に１回（６～７月に実施）学生および大学院生との学生懇談会を実施し、学習環境や学生生活における学生目線での問題

や要望を聴き、キャンパス整備に反映させる機会を設けている。[5.1]

また、HP には大学院教育の項目のなかに、「修士課程」、「博士課程」、「授業案内」、「学位申請／短縮修了手続き／研究論文の執筆方法と雑誌からの受理を得るために」、「学位情報検索／証明書の交付」、「院生へのお知らせ（健康診断等各種連絡）」、「学生生活」の各項目について詳細に記載している。

○履修ガイダンスを 4 月に行い履修の方法や注意点を指導している。また、３年次からは学位論文の提出についての説明会を実施している。また、HP に「学位申請／短縮修了手続き／研究論文の執筆方法と雑誌からの受理を得るために」を掲載し随時学生の疑問に答えられるようにしている。[5.1]

・ 2019 年度博士課程新入生ガイダンス資料（別添資料 4515-i5-5）
・ 2019 年度修士説明会カリキュラム（別添資料 4515-i5-6）
・ HP 大学院教育 _ 名古屋大学大学院医学系研究科・医学部医学科（別添資料 4515-i5-7）

○研究科博士課程の学生は多くは医師として医療機関や大学等に進む。医師以外の学生あるいは修士課程の学生については、全学の博士課程教育推進機構が主催の企業とのマッチング等の会に参加している。[5.3]

・ 名古屋大学 博士課程教育推進機構 HP（別添資料 4515-i5-9）
・ 博士課程教育推進機構キャリア推進室 HP（別添資料 4515-i5-10）

＜必須記載項目６　成績評価＞

【基本的な記載事項】

・ 成績評価基準（別添資料 4515-i6-1）
・ 成績評価の分布表（別添資料 4515-i6-2～5）
・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 4515-i6-6）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目７　卒業（修了）判定＞

【基本的な記載事項】

・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 4515-i7-1～2）
・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を

含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 4515-i7-3～8)

- 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 4515-i7-9～12)
- 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 4515-i7-13～17)
- 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 4515-i7-18～22)

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　博士学位取得要件を変更し、学位申請用論文を剽窃チェックソフトにかけ、責任著者および指導教員が剽窃の有無を確認し、学位申請者に確認届の提出を義務づけた。2016 年度には研究コンプライアンスプログラム（生命倫理＋研究倫理）（別添資料 4515-i7-23)を実施し、大学院学生１年次生の必修プログラムとした。2017 年度には「盗用を回避するためには」全学研究コンプライアンスプログラム EPIGIUM（e-learning）を大学院学生の必修プログラムとし、80 点以上を合格とした。また、留学生用には研究コンプライアンスプログラム（生命倫理＋研究倫理の受講）に代わり CITI（e-learning）プログラムの受講を義務づけた。これらの倫理教育プログラムを受講してない学生は学位申請が受理されない。[7.1]

○　課程博士の学位の質を向上させるため、平成 30 年４月より、基本的に学位論文としては、PubMed かつ Web of Science Core Collection に掲載されている雑誌のみを認めることとした。急な厳格化による混乱を避けるため、ここ数年間に限り個々の論文について移行措置の適否を大学院教育委員会で審議している。[7.2]

○　医学系研究科（保健学）における修了判定は、教育 FD 委員会および学位授与委員会、専門委員会（教授会）でのチェックを行い、教育の質の点検と確保をしている。[7.1]

○　博士前期（修士）課程における修士論文の審査は教授２名を含む審査体制、博士後期（博士）課程での論文審査は教授２名以上を含む３名での審査体制をとっている。博士論文の審査申請には、主たる研究内容が査読のある指定の英文国際学術誌へ掲載決定されていることを課している。[7.2]

・研究コンプライアンスプログラム（別添資料 4515-i7-23)

＜必須記載項目８　学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 4515-i8-1)

名古屋大学医学系研究科　教育活動の状況

- 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- 入学定員充足率（別添資料 4515-i8-2）
- 指標番号１～３、６～７（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　JDP を始め海外からの留学生の入学前あるいは入学後の相談や指導は国際連携室を設け担当の４名の教員がサポートしている。[8.1]。

平成 25 年 5 月には医学系研究科に国際連携室を設置し、専任の教員と事務補佐員を配置することによって研究科及び附属病院の次世代を担うグローバル人材の包括的育成のための体制を強化した。そして平成 27 年にアデレード大学と本邦で初めてとなる海外の大学とのジョイント・ディグリー・プログラムを開始した際には、同室が中心的な役割を果たした。（別添資料 4515-i3-5 p65-　第５章業務運営　Ⅰ　業務運営の改善及び効率化　１組織運営の改善を参照）

○　医学系研究科（保健学）では、一般および社会人特別選抜による学生を受け入れ、多様な学生の入学に対応している。[8.1]

＜選択記載項目Ａ　教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 4515-i4-11）（再掲）
- 指標番号３、５（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　ジョイント・ディグリー・プログラム国際連携総合医学専攻（JDP）の設置。2015 年 10 月に我が国初のジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）（別添資料 4515-iA-2）を開設した。オーストラリアのアデレード大学との JDP「名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻」（別添資料 4515-iA-3）コースの定員は１学年あたり相互に２名、計４名となっている。同様に 2017 年４月よりスウェーデンのルンド大学との JDP「名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻」（別添資料 4515-iA-4）が開始され、国際連携最先端医学特論などの講義を実施している。また、定員は相互に各２名の計４名となっている。平成 30 年の 10 月には文部科学省より３つ目の JDP である「名古屋大学・フライブルク大学国際連携プログラム」（別添資料 4515-iA-5）の学生募集を開始した。定員は相互に各１名の計２名となっている。2015 年秋から 2017 年の間に本プログラムには、アデレード大学との JDP においては、名古屋大学側で３名、アデレード大学側に２名の

入学者があった。一方、ルンド大学との JDP においては 2017 年度に名古屋大学側に２名、ルンド大学側に１名の入学者があった。これらのコースを運営するために国際連携室が 2013 年５月に設置され、外国人教員が２名、日本人教員が２名の計４名配置された。[A.1]

○　国家中枢人材養成プログラムの開始。2014 年 10 月よりアジア諸国の国家中枢人材養成プログラムによる博士課程の受入を開始した。大学院博士課程での学位取得を希望するアジア諸国の政府幹部等に対し特別な博士課程プログラムを提供するプログラムである。特に平成 15 年度より設置された修士課程の医療行政コース（ヤングリーダーズプログラム：YLP）を修了し一旦自国に戻り政府等の機関で活躍している学生を優先的に博士課程に採用している。[A.1]

○　国費外国人留学生の優先配置特別プログラム。2013 年度に文科省の「国費外国人留学生の優先配置特別プログラム」に採択され、「協定を基にした医学研究分野に於ける高度人材獲得プログラム」を 2014 年度 10 月より受入開始した。また、これの終了に伴って平成 30 年度より新たに「世界を翔ける次世代医科学研究リーダー育成プログラム」が採択された。これらプログラムにより、国費外国人留学生の本研究科からの優先配置枠が５枠となり、優秀な外国人留学生の獲得に貢献している。[A.1]

○　医学系研究科（保健学）では、大学院生の国際化教育として、2010 年より韓国・延世大学との協定を結び、日本学生支援機構および日本・アジア青少年サイエンス交流事業の支援を受けつつ、毎年両大学間での学術研究交流会を開催している。名古屋大学と延世大学で交互に開催し、各大学 10～15 名の大学院生が研究発表を行い研究室の相互訪問を継続している。2019 年よりキャンパス内の講義棟に隣接して名古屋大学留学生宿舎が開設され、宿舎の一部は医学系研究科（保健学）の学生の入居利用や留学生支援チューターとしての大学院生雇用がなされ、大学院生の生活レベルでの国際化体験の場が提供されている。また、リーディング大学院ウェルビーイングプログラムで開催されるグローバルリーダー講義（英語）の一部を積極的に一般大学院生に開放し交流を図っている。[A.1]

＜選択記載項目Ｂ　地域・附属病院との連携による教育活動＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　教育実施体制の強化として、地域の医療研究拠点である、愛知県がんセンター研究所、愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所、国立病院機構名古屋医療センター及び国立長寿医療研究センターの４機関は連携講座として、総合医学専攻の大学院生の教育研究指導に加わっている。さらに、高い研究能力や特色のある研究諸機関として生理学研究所、統計数理研究所、PMDA、またアステラス製薬などの企業とも協定を結び、客員教授の称号を授与するとともに大学院生の指導への参画も可能にしている。[B.1]

＜選択記載項目Ｃ　教育の質の保証・向上＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜選択記載項目Ｄ　リカレント教育の推進＞

【基本的な記載事項】

・　リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 4515-iD-1～3）
・　指標番号２、４（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　医学系研究科（保健学）では、社会人特別選抜を実施し、医療専門職社会人の学位取得教育を実施している。また、昼夜開講や土曜開講により社会人学生の教育に配慮している。[D.1]

分析項目Ⅱ　教育成果の状況

＜必須記載項目１　卒業（修了）率、資格取得等＞

【基本的な記載事項】

・　標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4515-ii1-1）
・　「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 4515-ii1-2）
・　博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
・　指標番号 14～20（データ分析集）
・　医学課程卒業者の医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
・　歯学課程卒業者の歯科医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
・　薬学課程卒業者の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）
・　看護学課程卒業者の看護師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　博士課程の学生は、2015 年度から 2019 年度までの５年間に 946 報の論文発表と 3,609 報の学会発表を行っており、78 個の受賞を受けている。博士課程において特に顕著な業績を挙げた学生には３年から３年半の短期修了を促しており、毎年 20 名程度の短期修了者を出している。[1.1]

○　修士課程（医科学専攻）の学位授与率は、ほぼ 100%を維持している。特に修士課程(YLP)は、2003 年度の設置時から 161 名の卒業生を輩出、全員が修士論文を執筆し、学位授与率は 100%である。うち、76 編(47%)の論文は国際ジャーナルに掲載されている。[1.2]

○　医学系研究科（保健学）では、2013 年度～2017 年度までの５年間に 296 名の修士学位、66 名の博士学位取得者があり、５年間における通算学位取得率は前期（修士）課程で 97.0%、後期（博士）課程で 73.3%であった。[1.1]

＜必須記載項目２　就職、進学＞

【基本的な記載事項】

・　指標番号 21～24（データ分析集）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

○　医学系研究科（保健学）では、前期（修士）課程の修了者の約８割が医療施設、約２割が進学あるいは大学・企業等への就職している。博士後期課程の修了生は大学等研究教育職への就職も多い。[2.1]

名古屋大学医学系研究科　教育成果の状況

＜選択記載項目Ａ　卒業（修了）時の学生からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

・　学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 4515-iiA-1～4）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜選択記載項目Ｂ　卒業（修了）生からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜選択記載項目Ｃ　就職先等からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第３期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

【参考】データ分析集　指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数（常勤、常勤以外別）	職員総数（常勤）／本務教員総数 職員総数（常勤以外）／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1．5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1．5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 　部分の指標（指標番号８、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。